

## 行政機関向け文字情報基盤の公開について

平成 23 年 10 月 26 日  
内閣官房  
情報通信技術（IT）担当室  
経済産業省  
情報処理推進機構

氏名には多様な漢字が使われており、国、地方公共団体等の行政機関では、情報システムで適切に氏名を扱うために、コンピュータに標準搭載されていない文字を外字として作成するなど、氏名を表記するために様々な取り組みを行ってきました。しかし、氏名を正確に表記したいという要望がある一方で、外字作成や管理の行政コストという観点から、大きな課題となっておりました。

このため、「新たな情報通信技術戦略 工程表」（平成 22 年 6 月 22 日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部決定）において文字に関する課題への取り組みが進められています。その一環として、平成 22 年度に内閣官房（情報通信技術（IT）担当室）、総務省、法務省、経済産業省、文化庁などの関係府省や関係者が参加する文字情報基盤推進委員会を設置し、文字基盤の在り方について検討を重ねてまいるとともに、戸籍統一文字や住民基本台帳ネットワークシステム統一文字を網羅した、氏名漢字 58712 文字のフォントと画数などの文字情報を整備しました。

その後、検証版を平成 23 年 5 月に公開すると共に、平成 23 年度文字情報基盤推進委員会を 6 月に設置し、関係府省等により正式版公開に向けた検証を進めるとともに実運用に向けた環境整備をしてまいりました。さらに、「電子行政推進に関する基本方針」（平成 23 年 8 月 3 日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部決定）に基づき、行政機関における文字情報基盤の活用に関する検討を進めております。

この度、実運用に必要と指摘された文字の整備が完了し、検証版において大きな問題が生じていないことから、フォントと文字情報の正式版を公開いたします。今後は、行政機関や行政機関内のシステム毎に異なっていた外字の相互参照が可能になり、住民の利便性向上や行政機関の効率化が期待されます。

正式版のフォントと文字情報は、情報処理推進機構のウェブサイトからダウ

ンロード可能であり、今後の運用、保守も情報処理推進機構が実施していく予定です。運用、保守にあたっては、行政現場の実務や国際標準との整合性をとり、文字情報の更なる正確性を期していく予定です。

文字情報基盤の普及を図るために、説明会を札幌、仙台、東京、大阪、福岡で11月から実施予定です。詳細は情報処理推進機構のウェブサイトに順次掲載してまいります。ウェブサイトをご確認ください。

別紙1 パンフレット

別紙2 文字情報基盤 文字情報一覧表 項目一覧

(本発表資料のお問い合わせ先)

内閣官房 情報通信技術 (IT) 担当室

担当：恩田

電話：03-3581-3639

経済産業省 商務情報政策局情報プロジェクト室

担当：守谷、平本

電話：03-3501-2964

独立行政法人情報処理推進機構

国際標準推進センター 担当：武藤

電話：03-5978-7507

戦略企画部広報グループ 横山 / 大海

電話：03-5978-7503

# 外字で困っていませんか

行政業務の基盤として、氏名表記に使える文字図形と文字情報を整備しました。

邊邊辺…  
邊邊邊

戸籍統一文字(漢字55267字)  
戸籍のオンライン手続に使用することを目的として整理した文字

邊邊邊…  
邊邊邊

住民基本台帳ネットワーク  
システム統一文字(漢字19432字)  
多くの住民が氏名に使う文字を整理

邊邊

JIS漢字コード(漢字10050字)  
実用上の情報交換の必要性から、出現頻度などを元に文字を選定

辺

常用漢字(2136字)  
法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、  
現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示す

※上記は全体概要を示すイメージ図です。

## 目的

- ・行政事務の効率向上
- ・外字管理コスト削減

## 提供する文字図形

- ・上記を全て包含する 58712 文字
- ・明朝体
- ・オープンタイプフォント
- ・文字図形ファイル(1文字 1ファイル)

## 文字情報一覧表

- ・読み、画数などの基本情報
- ・各種文字番号の相互関係
- ・国際標準符号との関係 等

2011年10月26日

内閣官房(情報通信技術(IT)担当室)  
経済産業省  
情報処理推進機構

## 利用シーン

- ・既に持っている外字の字形同定作業の基準として活用
- ・組織内の複数システム間の連携の基準として活用
- ・他の行政機関との情報交換時の補足情報として活用
- ・追加の外字として活用
- ・印刷に活用

## 利用方法と利用条件

- ・無料でダウンロード可能ですので、システムに組み込んで活用することが可能です。修正情報の提供等がありますので、利用者登録をお願いします。

<http://ossipedia.ipa.go.jp/ipamifont/index.html>

- ・フォントに対する使用条件の基本的考え方は以下の通りです。  
「文字図形の改変をした時には、利用者の求めに応じて元の文字図形に復元可能なこと」  
利用者の文字図形改変などにより一意性が低下する事を防止するため、上記条件が付いています。  
利用規約の詳細は、フォントダウンロード時にお読みください。
- ・ダウンロード以外にも検索サービスの提供をおこないます。

[http://ossipedia.ipa.go.jp/ipamifont\\_glyph/](http://ossipedia.ipa.go.jp/ipamifont_glyph/)

## 留意事項

- ・業務目的に応じて文字の使用範囲を決めることが重要です。利用の利便性や業務効率を考慮し適切な範囲で活用してください。特に外部の組織や社会活動に影響を与える業務においては、細心の注意が必要になります。
- ・文字図形と UCS 符号との対応については今後修正の加えられる可能性があることから、文字図形を特定する用途においては、文字情報基盤文字図形名 (MJ 文字図形名) をインデックスとして使うことを推奨します。(平成 24 年 3 月頃に上記に関する小規模な修正情報を公開予定です。修正内容は事務局にお問い合わせ下さい。)
- ・文字のデザイン差と手書き文字との関係については常用漢字の考え方を基本とします。

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/pdf/jouyoukanjihyou\\_h22.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/pdf/jouyoukanjihyou_h22.pdf)

本事業は、国の基本戦略である「新たな情報通信技術戦略」（平成 22 年 5 月 11 日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部決定）の一環として取り生まれ、「電子行政推進に関する基本方針」（平成 23 年 8 月 3 日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部決定）において、国民 ID 制度、企業コード等の項目内で方針が示されています。

また、具体的な検討は、内閣官房（情報通信技術 (IT) 担当室）、総務省、法務省、経済産業省、文化庁等の関係府省や自治体や文字関係者が参加する文字情報基盤推進委員会で行われています。詳細のお問い合わせは、事務局の情報処理推進機構までお願いいたします。

(独) 情報処理推進機構 国際標準推進センター <https://ipa-rept.ipa.go.jp/inquiry/input/ex1/>

## 文字情報基盤 文字情報一覧表（略称：MJ 文字情報一覧表） Ver.001.01

## 項目一覧

項目	内容
MJ文字図形名	文字情報基盤の文字図形名。
SVG図形バージョン	対応するSVG図形ファイルのバージョンを記した。
汎用電子整理番号	汎用電子情報交換環境整備プログラムの漢字情報テーブルにおけるレコードの通し番号。
平成明朝	平成明朝体グリフのグリフ名。平成明朝体グリフは汎用電子情報交換環境整備プログラムの文字グリフ作業委員会にて制作されたものである。
部首	部首欄には部首番号を記した。『康熙字典』の部首の通し番号により、1から214までである。
内画数	内画数欄には部首内画数（部首を除いた残りの部分の画数）を記した。
総画数	総画数欄には文字の総画数を記した。
読み（参考）	読み欄には文字の読みを記した。原則として、音読みは片仮名、訓読みは平仮名で示した。
漢字施策	「常用漢字」は、常用漢字表（平成22年11月30日内閣告示）に通用字体（常用漢字表で括弧が添えられていない字体）として示された漢字である。「人名用漢字」は、戸籍法施行規則別表第二の「漢字の表一・二」に示された漢字である。
戸籍統一文字番号	6桁の10進数の戸籍統一文字番号を記した。
住基ネット統一文字コード	「J+」に続けて4桁の16進数の住民基本台帳ネットワークシステム統一文字コードを記した。
登記統一文字番号（参考）	8桁の10進数の登記統一文字番号を記した。
X0213	X0213欄には、JIS X 0213:2004の面区点コードを記した。
包摂連番	包摂連番欄には、該当する文字にJIS X 0213:2004の包摂規準を適用させると符号化できる場合、包摂規準連番を記した。
包摂区分	包摂区分欄には、「0」「2」の2種を記した。「0」は、該当する文字がJIS X 0213:2004規格票の例示する字体に相当する字形であることを示す。「2」は、該当する文字がJIS X 0213:2004の包摂規準を適用できる字体に相当する字形であることを示す。

X0212	X0212欄には、JIS X 0212:1990の区点コードを記した。
対応するUCS	対応するUCS欄には、「U+」に続けてISO/IEC 10646:2003/Amd.5の16進のUCSコードを記した。ただし、UCSコード情報の確度が異なるため、「UCS対応カテゴリ」欄に確度情報を記した。
UCS対応カテゴリ	<p>「対応するUCS」欄の確度のカテゴリ分けを下記(A1,A2,A3,A4,B)のように行った。</p> <p>【カテゴリA】</p> <p>平成23年度文字情報基盤事業で確認済みのもの。</p> <p>A1) ISO/IEC10646 CJK統合漢字にJソースがあるもの（JIS X 0213、JIS X 0212に例示されている文字を含む）。</p> <p>A2) 住基ネット統一文字で住基ネット統一文字コードが3400～9FA5のもの。</p> <p>A3) IVDにHanyoDenshiコレクションとして登録されているもの。</p> <p>A4) 文字情報基盤事業において個別に確認したもの。</p> <p>【カテゴリB】</p> <p>CJK統合漢字にJソースが無く、符号位置特定の作業が継続中であるもの（上記A以外）。</p> <p>【カテゴリC】</p> <p>対応するUCS符号位置が標準化されていないもの及び対応符号位置が明確でないもの。</p>
UCS実装	IPAmj明朝フォントへの実装において上記UCSを割り当てた文字に○を記した。
IVS	Unicode ConsortiumのIVD Version 2010-11-14のHanyo-Denshiコレクションに登録されているIVSを記した。
IVS実装	IPAmj明朝フォントへの実装において上記IVSを割り当てた文字に○を記した。
大漢和	大漢和欄には、諸橋轍次『大漢和辞典』（修訂第二版第六刷、大修館書店、2001年）及び鎌田正・米山寅太郎『大漢和辞典補巻』（初版、大修館書店、2000年）の親字番号を記した。なお、『大漢和辞典』及び『大漢和辞典補巻』の親文字と漢字字体に差異があるものの同定が可能なものには、親字番号の末尾に#を付けて示した。
更新履歴	本一覧表において、過去に変更された情報の履歴を記した。変更のあったmj文字情報一覧表バージョン番号を行頭に記した。